



一般財団法人人生100年社会デザイン財団

活動報告

第5回人と組織のあり方研究会

活動目的・背景

新しい人生100年社会を見据えた、人・組織のあり方の研究（勉強）を目的とします。

牧野篤先生（一般財団法人人生100年社会デザイン財団（以下、100年財団）代表理事）の「AAR循環」、「affordance から modified-affordance」、また日本価値創造ERM学会様（以下、JAVCERM）から「Unlearn」というテーマを題材に、これらの考え方を理解し、共感し、そこから人、組織に落とし込み、実践するための議論と実践検討を行います。

参加者

100年財団5名、JAVCERM会員15名、
牧野教授 ※事務局も含む

開催日時・場所：

2022年1月31日（月）18:00~20:00

web会議システム（zoom）

活動内容

18:00~18:35 今までのおさらい、企業と
社員の新たな関係について
事務局・三宅将之氏(JAVCERM会長)
・牧野篤氏(100年財団代表理事)

18:35~19:30 グループディスカッション

19:30~20:00 グループ議論の発表、全体
議論

20:00 閉会

第5回勉強会の概要

過去に開催した勉強会と議論を通じて「本来、社会関係資本の一部であるべき企業がその役割と責任の一端を担う立場から、他の社会関係資本との連携しながら、傘下社員に対し、個社に依存しない、多様なキャリア形成についての学びや経験の機会提供を通じ個人の働き方に関する価値観の変革を促し、自らも働き方に関する企業風土を変革し、以て新しい人と組織のあり方を構築するにはどうしたらよいか」といった課題設定まで至りました。

第5回の議論では、「企業と社員の新たな関係」について「働きがい」と「価値創造」を深掘りしました。例えば、今までの管理型リーダーシップからこれからはファシリテーション型リーダーシップ、従来では多くの個人の生活は家庭と職場の行き来のみといった画一性・集団凝集性だったが、これからはサードプレイスを持つこと、それによる多様性・価値創造などについてお話がありました。

後半は「新しい人と組織のあり方」を構築する上で、**地方大学との連携はどのような可能性があるでしょうか。**をテーマに、「意義」と「実現可能性」についてグループディスカッションを進めました。

以下グループディスカッションの一部の意見です：

- ・ **社会人がサバティカル**のような形で、大学で学び直しをするのは良いことではないか。
- ・ 地方大学に行くことは、社会人にメリットがあるはず。一方で、**企業の側はメリットが見えにくい**ところがある。
- ・ 自然を感じるのは地方でないとできない。企業の関心が高い**SDGsと地方大学を絡める**こともあるのではないか。
- ・ 違う視点をもつことができる。地方大学に様々な企業から来る、その人たちの中で**様々な化学反応**が起きることを期待できる。

※その他もたくさんのご意見・ご感想いただきました。ありがとうございます。

今回は、「地方自治体との連携」に関する議論を予定しています。